

## 大学院入試経験談

2017Aクラス 孫一杰

私は亜細亜友之会外語学院に在学し、芸術専攻で、多摩美術大学美術学部合格した者です。私は自分の経験談を通して、ネバーギブアップを皆さんにお伝えしたいと思います。

私は中国の農村地区の一般高校を卒業し、美術専攻の道を歩んできました。高校時代、私は自分の将来について真剣に考えるようになりました。中国で有名な美術大学に入るには英語試験で高い点数を取得するのが必須で、競争が激しいです。そのため、私は2016年1月に日本に来ることを決意しました。

入学したばかりの頃、私は、成績の順で下から2番目のクラスに振り分けられました。日本語のレベルはほぼゼロに等しいです。当時、自分がどのような大学に進学し、いつ進学するかもわかりませんでした。しかし、2016年7月にN2級に合格したことで自信が持てるようになり、美術専攻の道続けてゆき、進学試験への準備に本腰を入れたのもその頃でした。美術専門分野では、日本のトップが東京藝術大学だと知り、情報収集を自分なりにしてみました。それで自分の実力の足りなさに気づきました。留学生みんなが評価の良い大学にはいりたがるのが十分理解できることです。しかし、自分の実力に合った大学を選択することも大切で、私は最終的に東京藝術大学への出願をあきらめました。自分の実情を徹底的に分析し、私は武蔵野美術大学を志望校に絞りました。目標を決めた私は早速準備に取りかかりました。2016年度は武蔵野美術大学1校しか申し込んでいませんでした。結果的に、武蔵野美術大学に合格できませんでしたが、私はあきらめずに、もう1年をかけて進学に挑むことにしました。

二年目に入り、私は自分の気持ちの整理をきちんとし、教科書上の知識のみにこだわることなく、幅広く本を読み、自分の視野を広めることにしました。一年をかけてじっくり勉強をして、私は武蔵野美術大学と多摩美術大学のほかに、日本大学の映画専攻にも出願しました。結果的に、日本大学の映画専攻に落ちましたが、私は自分を見捨てず、美術専攻の道を歩み続けていました。それは、あとから今の自分を振り返ってみたとき、後悔しないのためでもあります。落第の現実をきちんと受け止め、進学チャレンジと無関係なことに気を取られたくないということにも原因があります。

ここで、亜細亜友之会外語学院の先生方に感謝したいと思います。先生方に貴重な時間を割いていただき、何回も模擬面接の練習に付き合ってくださいました。幸いなことに、多摩美術大学の面接問題は練習のときにすでに実演済みのものばかりでした。そのおかげで、多摩美術大学に合格しました。後輩の皆さんにもネバーギブアップの精神で進学に挑んでもらいたいです。

最後に、再度亜細亜友之会外語学院の先生方に御礼を申し上げます。先生方のおかげで、今日の私がいるわけですから、本当にありがとうございました。